

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	倍率 (100%相当り薬量)		収穫前日数	回数	10a当 散布量	摘要	
特別	発芽前 (3月)	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	10ℓ	発芽前	—	200ℓ	1.紅粒がんしゅ病対策として①病斑部と健全部の境界から基部方向に30cm程度切り戻す。②主枝・ 亜主枝上の場合には木質部が褐変している部分を完全に削り取る。③剪定枝は園外に持ち出し適切に 処分する。なお発生部の切り戻しや削り取りの跡には、トップジンMペースト原液（3回以内）を 塗布する。 ・スプレーオイル又はハーベストオイルと石灰硫黄合剤を混用する場合は、薬害の恐れがあるため、 混用後はすぐに散布すること。その場合は水88ℓ、スプレーオイル又はハーベストオイル2ℓ、 石灰硫黄合剤10ℓとする。	
1	発芽前	カイガラムシ類・ハダニ類	スプレーオイル 又は ハーベストオイル	50倍 50倍	2ℓ 2ℓ	発芽前 発芽前	— —	200ℓ	1.削り取った病斑及び被害枝は適切に処分する。 2.切口のゆ合促進のため、剪定時には切口にトップジンMペースト原液（3回以内）を塗布する。 3.赤星病防除のため、園地付近のかいすかいぶき、たまかいすかいぶき、はいびやくしん（そなれ） などを伐採処分し、植栽しない。 4.前年ハダニ類が多かった園地は、必ずスプレーオイル等を散布する。 5.スプレーオイル又はハーベストオイルを散布した場合は、次回散布まで7日～10日間は間隔をあけること。 6.展葉前の防除は、防除機の風圧を上げ過ぎないように注意する。	
2	発芽前	黒星病・赤星病・輪紋病	オーソサイド水和剤80	600倍	166g	3日前	9回以内	200ℓ		
3	発芽7日後	黒星病・黒斑病	オキシラン水和剤 ※	600倍	166g	21日前	9回以内	200ℓ		
		ハマキムシ類・クワコナカイガラムシ シンクイムシ類	スミチオン水和剤40	800倍	125g	21日前 (無袋栽培)	6回以内	200ℓ		
黒星 病 重 点 防 除 時 期	4	開花直前	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			250ℓ		
		黒星病・輪紋病・黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤	2,000倍	50g	14日前	3回以内			
		黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病	ベルコート水和剤	1,500倍	66g	14日前	5回以内			
	5	交配直前	黒星病・心腐れ症(胴枯病菌)	トップジンM水和剤	1,500倍	66g	前日まで	6回以内	250ℓ	
	6	落花直後	赤星病・うどんこ病・黒星病・輪紋病	アンビルフロアブル	1,000倍	100ml	7日前	3回以内	250ℓ	1.朝つゆが上がってから散布する。 2.赤星病の発生が多い時は、バシタック水和剤75 1000倍（収穫60日前まで/5回以内）を散布する。 ・推奨葉面散布石灰資材例：ハイカルティ、ストビットII 等
			黒斑病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症(胴枯病菌)・黒星病	チオノックフロアブル	500倍	200ml	30日前	5回以内		
ハマキムシ類、ハダニ類 シンクイムシ類、ナシチビガ アブラムシ類、カメムシ類			テルスター水和剤	1,000倍	100g	前日まで	2回以内			
7	落花7日後	赤星病・黒星病・黒斑病	カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日まで	3回以内	250ℓ	1.黒星病防除の重要な時期であるから適期を逃さず散布する。	
		黒斑病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症(胴枯病菌)・黒星病	チオノックフロアブル	500倍	200ml	30日前	5回以内			
8	落花14日後	赤星病・疫病・褐色斑点病・黒星病 黒斑細菌病・黒斑病・炭疽病 心腐れ症(胴枯病菌)・輪紋病	デランフロアブル	1,000倍	100ml	60日前	4回以内	300ℓ	1.ハダニ類やアザミウマ類の多い園では、モメントフロアブル2,000倍（14日前まで/3回以内） を散布する。 ・葉裏を白い紙等でこすり、斑点が付けば、ハダニ類がいます。ハダニ類は下草から上がって くるので、ひこばえの葉等で発生を確認する。 2.輪紋病のいぼ皮病斑が枝幹部に密生している時は、5月中旬までに削り取り、直後に トップジンMペースト（3回以内）を原液塗布し病幹部を被覆する。	
		アブラムシ類・カメムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類	アグロスリン水和剤	1,000倍	100g	前日まで	3回以内			
		黒斑病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症(胴枯病菌)・黒星病	チオノックフロアブル	500倍	200g	30日前	5回以内			
9	5月下旬	アブラムシ類・チャノキアザミウマ	ウララDF	2,000倍	50ml	14日前	2回以内	300ℓ	1.薬剤散布の効果をも高めるために、不用な新梢はかきとる。 2.ニセナシバダニの発生が見られた場合、ダニトロンフロアブル1000～2000倍 (収穫14日前まで/1回)で単用散布を行う。 ・推奨葉面散布石灰資材例：ハイカルティ、ストビットII 等	
		黒斑病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症(胴枯病菌)・黒星病	チオノックフロアブル	500倍	200g	30日前	5回以内			
黒星 病 重 点 防 除 時 期	10	6月上旬	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			300ℓ	1.梅雨期なので時期が遅れないように晴れ間をみて散布する。 2.この回以降カイガラムシ類の発生が懸念される場合はコルト顆粒水和剤4000倍 (収穫前日まで/3回以内)を補充散布する。	
		黒斑病・黒星病・輪紋病・炭疽病 心腐れ症(胴枯病菌)・褐色斑点病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	33g	前日まで	3回以内			
		ケムシ類・シンクイムシ類 アブラムシ類・カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50g	前日まで	3回以内			
	11	6月中旬	黒星病・輪紋病・赤星病 ケムシ類・シンクイムシ類	オーソサイド水和剤80	600倍	166g	3日前	9回以内	300ℓ	1.この回以降、ダニ剤を散布する場合は草刈りを散布前（3日前頃）に行ってから実施する。
			ハマキムシ類・ヒメボクトウ ハダニ類	サムコルフロアブル10	5,000倍	20g	前日まで	3回以内		
	12	6月下旬 (袋かけ後)	展着剤(ハイテンパワー)	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			300ℓ	1.黒斑病防除の重要な時期なので、防除を徹底する。 2.徒長枝整理と摘芯を行って、薬剤がしっかりと届くようにする。 3.WDG剤はさらさらとゆっくりとタンクの水に投入すると溶けやすい。一度にどぼっと入れると 固まるので注意。
黒星病・黒斑病・輪紋病 炭疽病・うどんこ病			ナリアWDG	2,000倍	50g	前日まで	3回以内			
シンクイムシ類・カメムシ類 コナカイガラムシ類・(アブラムシ類)			アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	50g	前日まで	3回以内			
13	7月上旬	黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病 アブラムシ類・ハダニ類 シンクイムシ類	ベルコート水和剤	1,500倍	66g	14日前	5回以内	300ℓ	1.シンクイムシの被害果は摘除し、6日以上水浸して完全処理する。	
			ロディー水和剤	1,000倍	100g	前日まで	2回以内			
14	7月中旬	黒斑病・輪紋病・黒星病・赤星病 ハダニ類	スコア顆粒水和剤	2,000倍	50g	14日前	3回以内	300ℓ	1.高温乾燥期に入り薬害をおこしやすいので、これ以降は夕方涼しくなってから薬剤散布する。	
			マイトコーネフロアブル	1,000倍	100ml	前日まで	1回			
15	7月下旬	展着剤(ハイテンパワー)	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			300ℓ		
		黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病	ベルコート水和剤	1,500倍	66g	14日前	5回以内			
		シンクイムシ類・アブラムシ類 カメムシ類・ケムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍	50g	前日まで	3回以内			
16	8月初旬	展着剤(ハイテンパワー)	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			400ℓ	1.散布は、日中の高温時を避けて散布するように心掛ける。 2.アブラゼミが発生する場合は、アグロスリン水和剤 1000倍（収穫前日まで/3回以内） を散布する。但し浸透移行性が弱いので、ムラなく葉裏まで十分に散布する。 3.WDG剤はさらさらとゆっくりとタンクの水に投入すると溶けやすい。一度にどぼっと入れると 固まるので注意。	
		ハダニ類	コロマイト水和剤	2,000倍	50g	前日まで	1回			
		アザミウマ類・シンクイムシ類 ハマキムシ類	ディアナWDG	10,000倍	10g	前日まで	2回以内			
特別	8月初旬 ～中旬	うどんこ病・黒星病・(胴枯病) 心腐れ症(胴枯病菌)・輪紋病	スクレアフロアブル	2,000倍	50ml	前日まで	3回以内	300ℓ	1.黒星病の発生が懸念される場合は散布する。	
17	8月中旬 (時期厳守)	展着剤(ハイテンパワー)	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			300ℓ	1.品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の総使用回数や収穫前使用日数を厳守する。	
		ハマキムシ類、ハダニ類 シンクイムシ類、ナシチビガ アブラムシ類、カメムシ類	テルスター水和剤	1,000倍	100g	前日まで	2回以内			
散布の際は幸水の収穫時期に十分注意する。										
特別	8月中旬 ～9月上旬	ハダニ類 ニセナシバダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	50ml	前日まで	1回	300ℓ	1.ハダニ類の発生が多い園では散布する。	
特別	9月上中旬	シンクイムシ類・アブラムシ類 カメムシ類・ケムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍	50g	前日まで	3回以内	300ℓ	1.シンクイムシ類対策。晩生品種（あきつきや南水など）がある場合は、 幸水と豊水の収穫の間にこの防除を実施する。 幸水などの収穫が終わった圃場にも散布する。（そちらにも対象害虫がいるため）	
18	10月上旬 (収穫後)	展着剤(ハイテンパワー)	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml			300ℓ	1.黒星病の発生の多かった園では、越冬病菌の密度を下げるため被害葉は集めて土中深く埋める。	
		黒星病・黒斑病	オキシラン水和剤 ※	600倍	166g	21日前	9回以内			
特別	10月中旬 ～下旬	枝枯細菌病・黒星病・黒斑病 輪紋病	ドクリンフロアブル ※	1,000倍	100ml	21日前	9回以内	300ℓ	1.黒星病の発生の多い園では、翌年の伝染源になるりん片への感染を防ぐため、 収穫後から10月下旬まで、上記のオキシラン水和剤と合わせて2回の防除を実施する。	

ラベルを必ず確認し、登録内容（倍率、収穫前日数、回数など）を遵守してください！また器具の洗浄は十分に行ってください。

暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

## 住宅地における農薬使用について

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については

極力、農薬散布以外の方法をとってください。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項（散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮）

等の遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。